



2023年5月 第109号

# せせらぎ

## 乙女峠友の会

### 津和野乙女峠 流配者の思いを紡いで(2)

#### 津和野の先祖を思う

ショファイユの幼きイエズス修道会

Sr. 相川ノブ子 (2023年1月10日記)

私が津和野行きの旅の真実を知るようになったのは、修道院に入ってからのことでした。昭和5年頃に集合写真を撮っていたことをかすかに覚えていましたが、旅から戻った人たちの写真であったことは、ずっとのちに知りました。

私は生まれて三カ月のとき、母フィの姉であるイエの養女となりました。幼いころ、「津和野ではご飯がなかったよ。大事に食べなねえ」と、よく養母が言っていました。「つわの」が何かもわからないまま、残さず食べたことを思い出します。津和野で辛い苦しい日々を体験した人から恨み辛みを聞くことがなかったので、何かを知ろうともせず、修道院に入会しました。1971年に長崎に派遣されて間もなく、津和野乙女峠殉教者顕彰会発会式に呼ばれました。そこに貼り出された名簿の中に大伯父相川友八の名前を見つけたのでした。

簡単に家系図を書いてみました。私の母の父方の祖父相川友吉は、潜伏キリシタンで1855年〔安政2年〕に42歳で亡くなりましたが、トメとの間に五人の子がありました。長女タメは平山松五郎に嫁ぎ金沢に行き、流配先でイセを産みました。また、

次男忠右衛門は養子に出たため、養母シヨとともに金沢に行き、流配先で姉タメと出会っています。この二人以外は津和野への旅でした。

長男友八は、津和野での説諭にも屈せずに仲間のもとに戻り、皆を安心させたことや、氷の池に投げ込まれたことが『旅の話』や『浦上切支丹史』に書かれています。次女ワイは1871年〔明治4〕年4月30日、27歳で殉教しています。三男豊作は、一男、五女の父親となり、その中に私の生母フィと養母イエがいます。

母の母方の祖父片岡惣市は、四番崩れの旅が始まるより前にも、長崎で牢に入れられて拷問を受け、それでも信仰を守り抜いた人と知られていたようです。妻サキは長女ノブ、次男要助を連れて先に津和野に流配されていた惣市と合流します。そのとき、長男の倉松は、プチジャン司教の指示に従ってピナンの神学校に逃れていました。惣市は1871年〔明治4〕年1月4日に津和野で殉教し、信仰者の模範として敬慕されます。

サキは、惣市亡き後、倉松、ノブ、要助の3人の子もたちを、夫に代って守り抜いた芯強い人であったようです。ヴィリオン神父様は自著『日本宣教50年』(116-117頁)にく今日(1873年〔明治6年〕3月14日)の訪問者は5人で2人は婦人。津和野から150里徒歩でやって来た。一人は、平のジョアン TATSUのお母さんドミニカ。もう一人は、

